

研修医紹介

現在、徳島大学病院で研修中の研修医

1年次研修医

毛山 剛
藤村 仁美
松本 友里
江藤 祥平
森住 俊
大黒 由加里
白河 綾
田岡 志保
高木 恵理
高橋 直希
田根 なつ紀
長坂 信司
高橋 真美子
矢野 祖

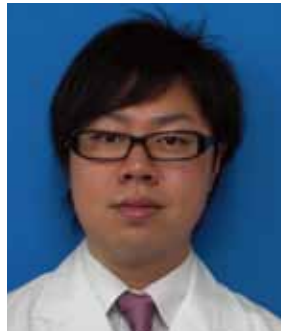
2年次研修医

宇高 恵吾
大嶋 功
新居 沙央里
緋田 哲也
宇高 良
岡崎 潤
岡田 泰行
尾崎 啓介
高岡 慶史
田中 宏典
萩野 寛隆
富士田 祥子

前回の
News Letter
発行後に戻ってきた
2年次研修医です！



内藤 圭介
(ないとう けいすけ)
6月から徳島大学病院で研修させて頂いています。短い時間の中で出来るだけ多くのことを吸収できるよう努力したいです。



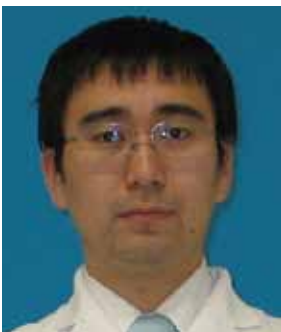
長江 雄浩
(ながえ かつひろ)
早いもので研修2年目も折り返し地点をむかえますが、まだまだ至らない所だらけなので精進します。



松岡 百百世
(まつおか ももよ)
まだまだ一人前とはいえませんが、患者さんやスタッフから少しでも信頼してもらえる様、日々精進していきたいと思います。



田村 潮
(たむら うしお)
約1年ぶりに大学に帰ってまいりました。よろしくお願ひします。



崎山 勉
(さきやま つとむ)
県立中央病院より戻りました。またご指導のほどよろしくお願い致します。



外権 千智
(とのかいそ ちさと)
これまでの経験をいかし、残りの研修をさらに充実させたいと思います。



岡部 寛
(おかべ かん)
10月から小児科、精神科、皮膚科で研修させていただきます。楽しく有意義な6カ月間にしたいと思います。(石川病院基幹型プログラム)

第1回 研修医のためのキャリアデザインセミナー

～熱き若手医師より学べ！“これが私のターニングポイント”～

去る8月24日、研修医のためのキャリアデザインセミナーを西病棟11階・日亜メディカルホールで行いました。これは卒後臨床研修センターがキャリア形成支援センターと共催で、初期研修から専門医研修への架け橋となるべく企画された、今回が初めての試みです。下記にご紹介した、個性豊かな経歴をお持ちの若手先生を講師としてお招きし、それぞれご自身の“キャリアデザイン”についてお話しいただきました。

会場には各診療科の先生方や研修医のみならず、医学科の学生も多く詰めかけるなど、多数のご参加をいただきました。研修医や学生にとってもこれから自分たちが進む道を考えるよいきっかけやモチベーションとなったのではないのでしょうか。懇親会として昨年も実施したビアパーティーを行い、こちらも盛況のうちに終えることができました。

キャリアデザインセミナーの講師の先生方

河野 弘 先生
徳島大学病院 呼吸器・膠原病内科
タイトル「膠原病リウマチ内科医への道」

森本 雅美 先生
徳島大学病院 食道・乳腺甲状腺外科
タイトル「主婦・母・外科医としての私」

吉岡 伸治 先生
西祖谷山村診療所 整形外科
タイトル「アイウオ留学記」

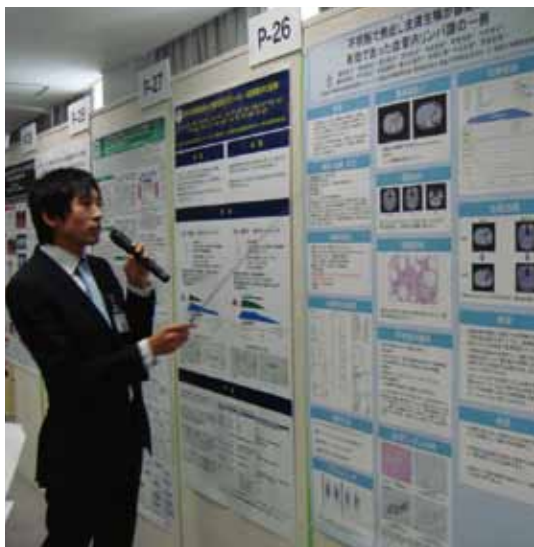
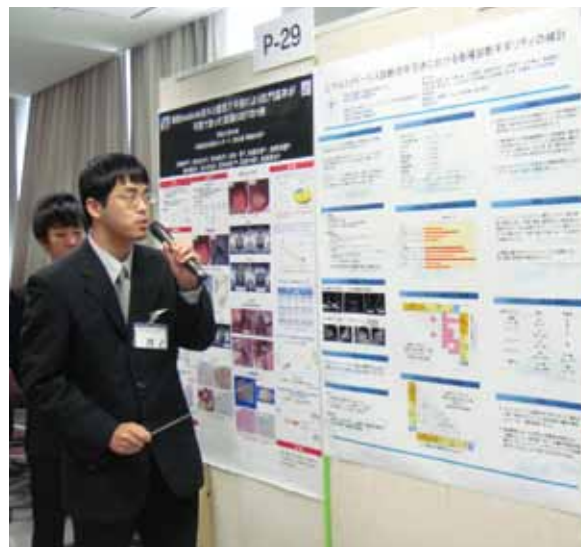


徳島医学会学術集会

平成23年7月31日(日)に徳島県医師会館で第243回徳島医学会学術集会が行われました。例年、研修医による発表も行われており、今年も徳島大学病院基幹型研修プログラムで研修中の研修医 9名が発表を行いました。この会では優秀な発表を行った研修医を対象に若手奨励賞が授与されており、第6回若手奨励賞は、徳島大学病院の原知也先生と藤岡啓介先生が獲得しました。

県内・四国内のみならず、国内の各種総会、国際学会で発表する研修医もあり、発表を一つ終えるとまた一段と成長しているようです。貴重な機会を与えていただき、指導して下さる各診療科の先生方に感謝しています。

若手奨励賞受賞	原 知也 先生 (2年次 研修診療科:循環器内科) [写真左] 「心サルコイドーシス診断の手引きにおける各種診断モダリティの検討」
	藤岡 啓介 先生 (1年次 研修診療科:呼吸器・膠原病内科) [写真右] 「不明熱で発症し皮膚生検が診断に有効であった血管内リンパ腫の一例」



医 員 募 集

平成24年度の医員募集情報

徳島大学病院では、下記の要領で、平成24年度の医員 (3年目以降の専門医研修者を含む)を募集します。

平成24年度の 医員募集の概要	条件	医師免許取得後2年以上臨床研修を行った者または、平成24年3月までに卒後臨床研修を修了(予定)している者。
	募集人数	170名(ただし、専門医研修希望者はすべて受け入れます)。
	処遇	国立大学法人徳島大学有期雇用職員就業規則による。
	募集のための書類	希望する当該診療科または 徳島大学総務部人事課蔵本人事係にお問い合わせください。
	募集の締め切り	平成24年1月中旬
	問い合わせ先	採用希望される場合は、随時、各診療科または 総務部人事課蔵本人事係までお問い合わせください。 人事課蔵本人事係 Tel.088-633-7018 Fax.088-633-7474

編 集 後 記

平成23年度の研修が始まり、半年余りが過ぎました。初々しかった研修医たちが日に日に逞しくなっているのを実感します。卒後臨床研修センターでも初の試みであった2部形式の徳島大学病院基幹型卒後臨床研修プログラム説明会やキャリアデザインセミナーを皆様のご支援の下、盛況のうちに終えることができました。また、今号では徳島大学病院の各診療科について紹介いたしました。卒後臨床研修や専門医研修に関すること、このニュースレターに関すること等、何かありましたら、ご連絡ください。(W)

■ ニュースレターに関する御意見・ご要望など、お気軽にお寄せください。
bsotsugo@jim.tokushima-u.ac.jp



徳島大学病院卒後臨床研修センター
Tel: 088-633-9359 または 9976
Fax: 088-633-9358
E-mail: bsotsugo@jim.tokushima-u.ac.jp
URL: http://www.tokudai-sotsugo.jp



卒後臨床研修センターの広報活動

徳島大学病院卒後臨床研修センターでは、本年も研修医の獲得に向けて様々な広報活動を行っています。6/4(土)には徳島大学病院基幹型卒後臨床研修プログラム説明会を行いました。今年はプログラム説明会としては初の試みで二部構成とし、一部は第二臨床講堂で徳島大学病院卒後臨床研修プログラムの概要についての説明と研修医・3年目医員による体験談プレゼンテーションを、二部はリハビリテーションセンターで徳島大学病院・協力病院による合同説明会をブース形式で行いました。関心のある協力病院のスタッフや研修医から直接話が聞けるとあって、マッチングを控えた徳島大学の6年生のみならず、4年生や5年生、他大学の学生の方にも多数ご参加いただくことができました。

県外における医学部学生を対象とした大規模な合同説明会には、研修医と卒後臨床研修センターの専任スタッフで毎年、徳島大学病院をアピールするために参加しています。今年度も岡山での中国四国地区医師臨床研修病院合同説明会、大阪と東京で行われたレジナビフェアで、各診療科の阿波踊り連のうちわをブースに飾り付けPRしてきました。これらの説明会を機に病院見学に来られる県外からの学生も増加しています。また、ホームページ(http://www.tokudai-sotsugo.jp)もアクセス数が毎月増加しており、研修医の様子を発信する卒後臨床研修センターのブログを始め、ホームページから閲覧できるようになっています。研修医の状況をぜひご覧ください。

これからも楽しく実りある広報活動を行っていこうと思っていますので、今後ともどうぞご協力をよろしくお願いいたします。



プログラム説明会 第二部 (リハビリテーションセンターにブースを設置)



▲東京レジナビ (秋田県ブースのなまはげと一緒に)
▼大阪レジナビ (診療科連のうちわとともに)

News

平成23年度 徳島大学病院の研修医マッチング結果 過去最高

本年度(平成24年度研修開始)の医師臨床研修マッチング結果が10月27日に公表されました。全国的に大学病院への内定者の割合が47.1%と低迷している中、幸運にも徳島大学病院は、定員44名に対し内定者42名(マッチ率95.5%)と飛躍することができました。これは、ひとえに大学病院の指導医の先生、コメディカルの方々をはじめ、多くの協力病院・施設など当院の

研修医を温かく育てていただいている全ての方のご支援の賜物であり、感謝申し上げます。卒後臨床研修センターでも今回の結果に満足することなく、より高質な研修医育成を目指して努力していきたいと思しますので、今後ともよろしくお願ひいたします。

研修医マッチング:次年度から臨床研修を受ける医学生らと、研修病院のそれぞれの希望を事前に登録し、コンピューターで組み合わせるもの、双方の希望が一致すると内定しが決まる。

徳島大学病院と県立中央病院を結ぶ連絡橋の工事がはじまり、いよいよ総合メディカルゾーンの実現にむけて具体的な検討が進んでいます。隣接する二つの急性期病院がそれぞれの機能を生かし、安全で質の高い医療を提供しようという試みは全国でも類を見ず注目を浴びています。県立中央病院の新棟が完成する来年の夏ごろを目途に具体的なプロジェクトが動き始めるはずで。たとえば救急救命センターを持つ県立中央病院を救急の窓口として一本化し、大学病院はその後方支援を行う役割を担う計画です。研修医や学生は総合メディカルゾーンが徳島大学病院の発展に寄与することを祈ります。



(2011年 秋) 徳島大学病院長 安井夏生

四国初のロボット手術に成功

本院泌尿器科では、前立腺がんに対する根治的前立腺全摘出術を10月12日、四国ではじめて手術用ロボット(ダヴィンチ)を用いて行われました。ダヴィンチは、手術支援ロボットで、鉗子やメスなどの手術器具を取り付けるロボットアームと操作ボックスの2つの機械からなります。操作ボックスに入った医師が、患者さんの腹部に小さな穴をあけ手術器具を取り付けたロボットアームと内視鏡を挿入し、これらを使用して手術を行います。ロボット手術は、①3次元の立体的な画像のもとで手術操作ができる ②拡大された視野のもとで手術操作ができる ③ロボットアームの動きは医師の関節の動きを完全に反映できる という3つの理由から極めて正確で安全な手術操作が可能となります。アメリカでは急速に手術支援ロボットが普及しており、前立腺がんに対する手術は9割以上がロボットで行われています。

今後は食道・乳腺甲状腺外科、呼吸器外科、消化器・移植外科、産科婦人科でも導入予定とのことで、手術支援ロボットの導入により、より患者さんのQOLを高める手術が可能となり、治療の選択肢が増加すること、最先端の医療が行えることなどの期待が高まっています。



▲手術器具をつりつけたロボットアーム

徳島大学病院 研修医奮闘記

残り半年の初期研修

2年次研修医
中澤浩志

『光陰矢のごとし』とはこのことか。そう思うぐらいに、めまぐるしい速さで時間が過ぎて初期研修生活も残り半年になりました。

私は徳島大学病院の産婦人科研修プログラムを選択し、精神科・救急救命・内科・地域医療研修を経て、3月より産婦人科での研修を開始しました。産婦人科医としての生活がスタートし、これまで以上の役割を求められ、与えられる仕事が増えました。担当医として産科および婦人科の責任ある仕事を任されることは、まるで修行の様だともあります。しかし、振り返ってみると確かに成長した自分がいることを実感することができ、充実した日々を送っています。

大学での研修では、十分な臨床的経験ができる上に教育や学術的な活動にも参加する機会が多いのが特徴です。各診療科ではカンファレンスや読書会が頻回に行われ、症例を多角的に考察できることが魅力的です。また、県内外で行われる学会に参加、発表する機会も多く、幅広い見識を得ることができます。さらに、希望すれば臨床および基礎的な研究に携わることも可能です。

今年は後輩の研修医ができ、その優秀さや積極性に驚かされています。また、後輩の先生に少しでも信頼されるような医者になりたいと思っています。

『一期一会』とはこのことか。医者になって、そう思うような人生の妙に出会うことも多くなりましたが、これからも充実した研修生活を送っていきたいです。



写真右が執筆者
※写真の掲載については、ご家族の承諾を得ています。

診療科

内科

徳島大学病院内科には呼吸器・膠原病内科、腎臓内科、血液内科、循環器内科、消化器内科、内分泌代謝内科、神経内科の7つの小診療科があります。内科の後期臨床研修プログラムは初期研修2年で体得した知識・診療技能をさらに深め総合内科医もしくは専門内科医へとステップアップしていくように企画されています。専門医研修システムとしては、7つの内科各診療科より選択した特定の専門領域を研修するコースと、プライマリ・ケア志向の総合内科診療研修コース(3ヶ月単位で複数の内科小診療科のローテーション)を用意しています。臨床研究に興味のある方は大学院に進学し、同時に専門医資格取得も可能です。つまり、専門医志望者にも総合内科志望者にも、また研究志向者にも無駄なく対応できる柔軟な研修システムとなっております。指導医側も臨床研修指導医養成講習会に積極的に参加するなどレベルアップ・アップデートに努めています。

消化器内科

(科長 高山 哲治)

当科では消化器疾患全般の診断と治療を積極的に行っています。内視鏡治療では、早期胃癌・食道癌・大腸癌に対する粘膜下剥離術(ESD)を積極的に行い、肝臓に対してはラジオ波焼灼術や高度インターベンション治療を多数行っています。また、進行消化器癌に対しては最新の分子標的治療薬を含めた質の高い化学療法を行っています。当科では、優れた研修システムを採用し、指導医と研修医が一体となって最善の医療を提供しております。



連絡先 岡久 裕也 okahisa@clin.med.tokushima-u.ac.jp
tel.088-633-7124 fax.088-633-9235
http://www.tokushima-hosp.jp/info/circulatory.html?rank_code=unit&belong_code=2

神経内科

(科長 梶 龍児)

かつては「わからない・なおらない」と脚掄された時代もあったらしいのですが、時代はダイナミックに変わっております。頭、の先から指の先までの神経の症状、神経難病、脳卒中(SCU)から日常遭遇する一般的な症状(頭痛・吐きれ・手足のしびれ感)に至るまでを「治る神経内科」を実践しております。ストリートな専門医試験合格にも定評があります。国内・海外への留学実績も豊富です。



連絡先 和泉 唯信 yizumi@clin.med.tokushima-u.ac.jp
佐藤 健太 satoh-k@clin.med.tokushima-u.ac.jp
tel.088-633-7207 fax.088-633-7208
http://www.neuro-tokushima.com

放射線診断科

(科長 原田 雅史)

放射線診断科では画像診断(CT、MRI、核医学、超音波、消化管透視)、IVR(血管内治療、CTガイド下生検など)を行っています。現代の医療において画像診断は必要不可欠です。全国トップクラスの検査装置・画像診断システムに恵まれた環境のもと、最先端の医療に挑むつみませんか。研究においても各々の分野で多くの臨床研究を行っています。また、家庭を持った女性医師でも働きやすい環境作りにも努めており、そのような女性医師の入局も歓迎です。



連絡先 原田 雅史 masafumi@clin.med.tokushima-u.ac.jp
tel.088-633-7173 fax.088-633-7174
http://www.tokushima-hosp.jp/info/circulatory.html?rank_code=unit&belong_code=25

小児科

(科長 香美 祥二)

「私達自身の未来である子ども達の健康を守ること、一般小児科臨床の基本を習得した上で更に小児科サブスペシャリティー(専門分野)での診療能力を養うこと」を目標に、小児科は医局員一同、切磋琢磨しています。香美祥二教授のもと、伝統を守りつつも新しいことに挑戦する姿勢で、日々診療に研究に努力しています。子ども達のために21世紀の小児医療を背負う若手医師の入局を、心からお待ちしております!!

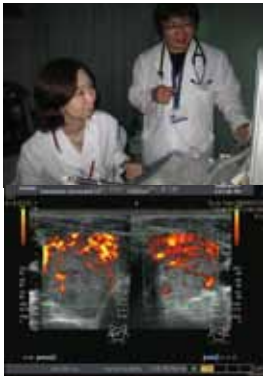


連絡先 渡辺 浩良 hwatana@clin.med.tokushima-u.ac.jp
tel.088-633-7135 fax.088-631-9697
http://www.tokudai-pediatrics.net/

内分泌・代謝内科

(科長 松本 俊夫)

内分泌腺が産生するホルモンは全身臓器の機能調節に関わり、生体のホメオスタシス維持に必須です。また、代謝異常症には糖尿病、脂質代謝異常症、痛風、骨粗鬆症など頻度の高い生活習慣病が多く、その理解は不可欠です。内分泌・代謝疾患では神経、呼吸器、循環器、血液領域などにまたがる多彩な全身症状を呈します。当科では、内分泌代謝疾患患者の診療を通して、臨床医として必要とされる幅広い病態の理解と的確な診断能力、そして適切な治療方針の立案能力を身につけた医師を育成しています。



連絡先 松本 俊夫 toshimat@clin.med.tokushima-u.ac.jp
tel.088-633-7120 fax.088-633-7121
http://square.umin.ac.jp/TUBioReg/index.html

循環器内科

(科長 佐田 政隆)

循環器内科はプライマリケアから非侵襲的画像検査、カテーテル治療などの専門・高度医療にわたる幅広い領域をカバーしています。当科では急性集中治療部と合同で循環器救急24時間体制を構築しており、徳島県内の各種医療機関との病診連携も積極的に行っています。臨床研修については、四国ではもとより東京、大阪、神戸などの県外医療機関と積極的に連携して、各自の将来設計に柔軟に対応できるプログラムを提供しています。

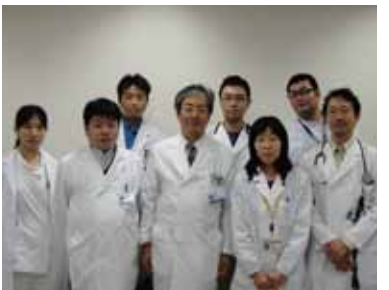


連絡先 佐田 政隆 sata@clin.med.tokushima-u.ac.jp
岩瀬 俊 tiwasae@clin.med.tokushima-u.ac.jp
tel.088-633-7851 fax.088-633-7894
http://square.umin.ac.jp/TOKUSHIM/

腎臓内科

(科長 土井 俊夫)

腎臓内科では、県下一円から難治性の腎疾患患者を受け入れています。腎臓内科の診療活動は、ネフローゼ症候群・腎炎などの腎疾患の診断治療と慢性腎不全の透析導入の2つの柱からなっています。糖尿病、高血圧、膠原病など全身性疾患からの腎障害も多く、広く内科全般に渡る研修をしていただきます。当科での取得可能専門医:総合内科専門医・腎臓専門医・透析専門医

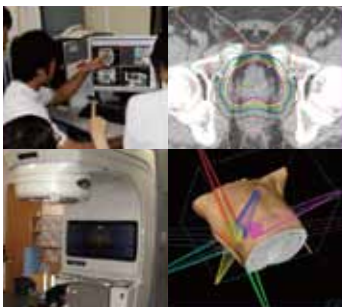


連絡先 土井 俊夫 doi@clin.med.tokushima-u.ac.jp
tel.088-633-7184 fax.088-633-9245
http://www.tokudai-kidney.jp/

放射線治療科

(科長 原田 雅史)

高精度外部放射線治療対応のリニアック3台、三次元治療計画装置と密着した線源治療システムを有し、年間800人を超える新規患者を受け入れています。当科では粒子線治療を除くすべての放射線治療技術の研修が可能です。また、緩和治療を含めた広範な癌診療に携わっておりますので、多くの診療科との連携の中で癌チーム医療を学んでもらい、ハイテク装置による低侵襲がん診療技術を習得したがんプロフェッショナルに育成します。



連絡先 原田 雅史 masafumi@clin.med.tokushima-u.ac.jp
http://www.tokushima-hosp.jp/info/circulatory.html?rank_code=unit&belong_code=26

精神科神経科／心身症科

(科長 大森 哲郎)

今、精神科医が求められています。精神科の敷居が低くなり受診者が増え続ける現状に加え、教育や行政からのニーズも激増しております。精神科は非常に守備範囲の広い診療科です。自分のライフスタイルや興味に合わせて方向性を選択することができます。研修にあたっては、各人の事情(婚姻、子供の有無、勤務時間等)を考慮し、弾力的に対応します。若き人材の参入を心からお待ちしております。



連絡先 住谷 さつき satsuki@clin.med.tokushima-u.ac.jp
tel.088-633-7130 fax.088-633-7131
http://www.med.tokushima-u.ac.jp/article/001553.html

血液内科

(科長 安倍 正博)

血液内科では、造血障害、造血器腫瘍や免疫不全を中心とした血液・免疫疾患に対し、化学療法、輸血療法、感染症治療、同種造血幹細胞移植術など幅広い診療を展開しております。このような治療の遂行においては、コメディカルとのチームによる全人的かつ専門的診療が重要です。当科ではコメディカルと一体となり患者の全身管理ができるバランスのとれた医師の育成を目指しています。



連絡先 安倍 正博 masabe@clin.med.tokushima-u.ac.jp
tel.088-633-7120 fax.088-633-7121
http://square.umin.ac.jp/TUBioReg/index.html

呼吸器・膠原病内科

(科長 西岡 安彦)

肺癌、肺炎、気管支喘息、リウマチ疾患を中心に、指導医・専門医のもとチーム医療を推進しています。難治性の呼吸器・膠原病疾患に対して、抗癌薬、抗菌薬、ステロイド・免疫抑制剤を用いた専門治療を行っています。生物製剤を用いリウマチ治療、間質性肺炎・睡眠時無呼吸症候群など良性呼吸器疾患診療でも県内で中心的な役割を果たしています。海外留学・留学受入も常時行っており、国際感覚に富んだ医療人育成をめざしています。



連絡先 堀淵 昌毅 mhoney@clin.med.tokushima-u.ac.jp
tel.088-633-7127 fax.088-633-2134
http://sannai.umin.jp/

皮膚科

(科長 久保 宣明)

皮膚科は現在、13人で毎日平均70人の外来患者、16人の入院患者を診ながら、教育、研究を行っています。過去10年間の新入医員は年平均2人です。後期研修の目標は、1)実学としての皮膚科学の習熟、2)皮膚科専門医取得、3)研究です。全て卒業後が勝負で、体力、気力、好奇心をもち、他人と話ができさえすれば大丈夫です。また研究にも興味を示してほしいと思います。いずれにせよ、皮膚科を選んだことを後悔することはありません。

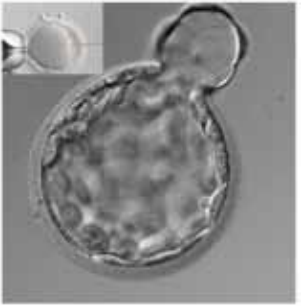


連絡先 久保 宣明 ykubo@clin.med.tokushima-u.ac.jp
村尾 和俊 kmurao@clin.med.tokushima-u.ac.jp
tel.088-633-7154 fax.088-632-0434
http://www.tokushima-hosp.jp/info/circulatory.html?rank_code=unit&belong_code=17

産科婦人科

(科長 苛原 稔)

現在医局員は、苛原稔教授をはじめとして20名。診療面では生殖、腫瘍、周産期、女性医学の4診療領域があり、どの部門も全国でトップレベルの成績です。分娩数は年間613件、手術件数は615件(平成22年度)。研究面では5つの研究班に分かれて、基礎的および臨床的研究を行っています。教育面ではカリキュラムを組み、学生、初期研修医の指導を行っています。産科婦人科に興味のある人は是非連絡下さい。



連絡先 苛原 稔 irahara@clin.med.tokushima-u.ac.jp
kuwahara@clin.med.tokushima-u.ac.jp
tel.088-633-7177 fax.088-631-2630
http://www.tokudai-sanfujinka.jp/Total/index.html

病理部

(部長 坂東 良美)

病理部は、病理組織診断・細胞診断を行うことにより、院内で実施される医療行為にevidenceを与える仕事を担っています。全国的に病理専門医数は絶対的に不足しています(徳島県では15名)。医療界全体が病理医の育成、獲得に必死になる時代が目の前に到来しつつあります。研修にあたっては、各人の事情(婚姻、子供の有無、勤務時間等)を考慮し、弾力的に対応します。若き人材の参入を心からお待ちしております。



連絡先 坂東 良美 yoshimi@basic.med.tokushima-u.ac.jp
tel.088-633-7454 fax.088-633-9565
http://www.tokushima-hosp.jp/info/circulatory_center.html?rank_code=dept&belong_code=12

外科

徳島大学病院外科は、消化器・移植外科、呼吸器外科、食道・乳腺甲状腺外科、心臓血管外科、小児外科・小児内視鏡外科から構成され、各科の専門医が協力し、臨床研修制度や専門医制度に対応した指導体制が整っています。卒後2年間の臨床研修の後、徳島大学外科に所属し、まず外科専門医の取得を最優先しますが、この研修は徳島大学病院から始めることも関連施設から始めることも可能です。四国内の約40の地域基幹病院のほか九州や沖縄にも関連施設があり、十分な外科修練を受けることが可能です。サブスペシャリティーの選択は、外科所属時、外科専門医取得後、いずれの時期でも結構です。その後は、(1)最新の基礎研究を行い、医学博士号の取得、海外留学を目指したコース、(2)臨床に重点を置き、サブスペシャリティー専門医の資格を先に目指すコース、(3)これらをバランス良く平行して修練するコースなどを設定し、いずれにしても入局後約10年以内の医学博士号とサブスペシャリティー専門医取得を目指します。外科を重点的に研修したい人のための初期臨床研修プログラムも準備しています。

食道・乳腺甲状腺外科

(科長 丹黒 章)

楽しく和気あいあいとした雰囲気、関連病院、連携研究施設も多く、研究環境も充実しており、現在、3名が米国、カナダに留学し、女医も多く活躍しています。4年間の研修で外科専門医、乳癌認定医、5年以上で内分泌・甲状腺外科専門医、乳腺専門医、消化器外科専門医が取得できます。さらに高度な食道外科専門医、内視鏡外科技術認定も取得でき、化学療法も多く手掛けていますので癌薬療法専門医、緩和ケア専門医も取得可能です。



連絡先 滝沢 宏光 htakizawa@clin.med.tokushima-u.ac.jp
tel.088-633-7143 fax.088-633-7144
http://www.tksbizan.com/

泌尿器科

(科長 金山 博臣)

泌尿器科では、関連病院のほとんどが日本泌尿器科学会で認定された基幹病院であり、症例も多く充実した研修が受けられます。さらに透析認定施設も多く、透析専門医の習得も可能です。少数精鋭のため、早い段階から開腹手術だけでなく、腹腔鏡手術の執刀を行っており、腹腔鏡技術認定医・腎移植認定医等の習得も可能です。希望に応じて大学院進学、国内・海外留学もできます。泌尿器科に興味のある先生の入局を大歓迎します。



連絡先 金山 博臣 kanahiro@clin.med.tokushima-u.ac.jp
井崎 博文 hirofumi@clin.med.tokushima-u.ac.jp
tel.088-633-7159 fax.088-633-7160
http://www.tokushima-hosp.jp/info/circulatory.html?rank_code=unit&belong_code=10

整形外科

(科長 安井 夏生)

整形外科は骨や筋肉・関節・神経など運動器を幅広く扱う診療科です。骨大工的な要素は多分にありますが、骨は生き物であるところが大工さんとは異なっています。整形外科は守備範囲が広く、なかなか一人前にならない一方で、誰でも努力すれば一流になれるところが魅力です。徳島から世界にはばたく骨大工になりませんか。



連絡先 安井 夏生 nyasui@clin.med.tokushima-u.ac.jp
tel.088-633-7240 fax.088-633-0178
http://www.geocities.jp/ksairoy/orthop.html

麻酔科

(科長 大下 修造)

初期研修プログラムではどの科に進んでも必要な呼吸循環管理ができることを目標としています。特に、気管挿管が自信を持ってできることを最低目標としています。後期研修プログラムでは大学と関連病院をローテーションすることであらゆる症例や状態に対応できる麻酔科医を育成し、また麻酔科関連の研究で世界に貢献できる教室を目標としています。



連絡先 堤 保夫 anesth@clin.med.tokushima-u.ac.jp
tel.088-633-7181 fax.088-633-7182
http://www.med.tokushima-u.ac.jp/article/0015541.html

消化器・移植外科

(科長 島田 光生)

「肝大切除・機能喪失から低侵襲・再生外科へ」をスローガンに肝胆膵外科領域では高難度手術、集学的治療、生体肝移植を行い、肝胆膵外科高度技能修練施設Aに徳島で唯一認定されています。消化管外科では胃癌、大腸癌手術とも年間100例を超えており、胃癌手術の4割、大腸癌手術の9割で鏡視下手術を行っています。最近では単孔式腹腔鏡手術(創は臍に1カ所のみ)を胆石症、ヘルニア、虫垂炎等に導入しています。鏡視下アニマルラボを含む研修プログラムも用意しています。



連絡先 居村 暁 s-imura@clin.med.tokushima-u.ac.jp
tel.088-633-7139 fax.088-631-9698
http://www.tokugeka.com/

心臓血管外科

(科長 北川 哲也)

心臓血管外科医は、「自分の知と腕」をもって、病む患者さんの生きようとする力を支えてあげることのできる、やりがいのある仕事です。暖かい心と勇気を持ち、夢と情熱のある方は、当科で専門医研修をしませんか。君たちの想いに応えます。現代の社会環境でこそチャンスです。"Chance favors only the prepared mind!!" 次代を担うのはあなたです。



連絡先 北市 隆 kitaichi@clin.med.tokushima-u.ac.jp
tel.088-633-7581 fax.088-633-7408
http://www.toku-cvs.umin.jp/

眼科

(科長 三田村 佳典)

人間は外界からの情報の90%を視覚から得ており、高齢化社会を迎え眼科医の重要性は益々高まっています。当教室では網膜硝子体、緑内障、角膜炎、斜視弱視、ぶどう膜炎、眼瞼眼窩といった広範囲の専門分野を研修することができます。また、独自の小切開硝子体手術器具を考案し質の高い網膜硝子体手術を行っており、日本で唯一AlphaCor(人工角膜)の手術も行っております。ぜひ、我々とともに活気あふれる教室を作ってください。



連絡先 江川 麻理子 emari@clin.med.tokushima-u.ac.jp
tel.088-633-7163 fax.088-631-4848
http://www.tokushima-ganka.jp

脳神経外科

(科長 永廣 信治)

脳神経外科疾患には、救急医療から慢性期疾患まで幅広く対応します。脳血管障害、神経外傷は救急医療の多くの部分を占めており、救急医療の習得が可能です。徳島大学脳神経外科の後期研修プログラムでは脳神経外科疾患を全般的に経験することが可能であり、到達目標を明確に定め、有意義な研修ができます。後期研修修了後は、豊富な疾患カテゴリーの中から、自分の興味や特性に合った専門分野を選択することができます。



連絡先 里見 淳一郎 jsatomi@clin.med.tokushima-u.ac.jp
tel.088-633-7149 fax.088-632-9464
http://www.neurosurgerytokushima.com/index.html

救急集中治療部

(部長 西村 匡司)

集中治療部、救急室は、あらゆる疾患に対応できる知識、診断能力、技術が必要です。重症患者の予後は専門医、専従医が治療方針を決定することで有意に改善することが知られています。当救急集中治療部においてもclosed policyを導入して以降、治療成績が著明に向上しており、どの施設にも負けないレベルです。集中治療や救急医療を専門にし、病院の医療レベルを支える仕事をしたいと考えている方は是非ご連絡ください。



連絡先 小野寺 隆雄 m-onodera@clin.med.tokushima-u.ac.jp
tel.088-633-9347 fax.088-633-9339
http://s.v01.inter-bus.jp/~toku_icu/

呼吸器外科

(科長 先山 正二)

当科は、肺癌、縦隔腫瘍、胸壁腫瘍など腫瘍性疾患を中心として、ロート胸、腫瘍、気胸など呼吸器外科疾患全般に関する診療を行っています。肺癌に対する胸腔鏡下手術、早期肺門部肺癌に対する光線力学方法や気道狭窄に対するステント、レーザー治療なども積極的にを行っています。外科におけるサブスペシャリティーとしての呼吸器外科専門医取得のための充実した修練プログラムを用意しています。外科・呼吸器外科に興味ある若人へ、来たれ!



連絡先 中川 靖士 y-nakagawa@clin.med.tokushima-u.ac.jp
tel.088-633-7143 fax.088-633-7144
http://www.tksbizan.com/

小児外科・小児内視鏡外科

(科長 石橋 広樹)

1)小児外科の広範な疾患に対する治療:四国の小児外科の中心的施設として、胸部、腹部をはじめ小児悪性腫瘍および、泌尿器科領域まで広範な疾患をカバーしています。2)小児外科領域での鏡視下手術:小児単径ヘルニアに対するLPEC法その他、ヒルシュスプリング病、鎖肛、GERDなどなどに対しても積極的に鏡視下手術を施行しており、中国・四国地方では、唯一の日本内視鏡外科学会技術認定(小児外科)を取得しています。



連絡先 石橋 広樹 hiroki@clin.med.tokushima-u.ac.jp
tel.088-633-9276 fax.088-631-9698
http://www.tokugeka.com/

耳鼻咽喉科・頭頸部外科

(科長 武田 昭昭)

現代の耳鼻咽喉科・頭頸部外科は、頭頸部の感覚運動医学、機能再建外科、頭頸部腫瘍外科を担当する科です。徳島大学耳鼻咽喉科では、耳鼻咽喉科の全ての担当範囲において国際トップレベルの医療を導入し、明るく楽しく積極的に、個性を尊重して個性を伸ばし、世界一の耳鼻咽喉科をめざしています。徳大耳鼻科で頭頸部のスペシャリストをめざませんか?



連絡先 阿部 晃治 kabe@clin.med.tokushima-u.ac.jp
tel.088-633-7169 fax.088-633-7170
http://www.tokushima-hosp.jp/info/circulatory.html?rank_code=unit&belong_code=15

形成外科・美容外科

(科長 中西 秀樹)

当科での研修は2つの行程があり、専門医を取得するための専門医研修(4~6年間)と、その後の専門分野の強化研修になります。1年目は、大学院で形成外科の基礎知識と技術の習得のための研修を行い、2年目以降は関連病院で研修になります。主に四国各県の公立病院で特色のある臨床研修を受けることが可能です。また、大学院での研究活動、さらに専門医取得後になりますが、海外・国内留学のチャンスも十分にあります。



連絡先 清家 卓也 seike@clin.med.tokushima-u.ac.jp
tel.088-633-7296 fax.088-633-7297
http://www.tokushima-hosp.jp/info/circulatory.html?rank_code=unit&belong_code=18

研修するならぜひ徳島大学へ!

